

(3-21) 開門に使用するセクターゲートについて

正員 運輸省第一港湾建設部 山田 正平

このセクターゲートは1923年スエーデンにおいて初めて使用されたものでその後北フランスの運河にマイターゲート或は引戸に代り使用され、逐次改良し現在に至っている。

アメリカにおいても1931年シカゴ附近に初めて使用されたが最近ニュオルレアンス附近の運河に採用され目下建設中である。

このゲートの特徴とするところは

- ①水位差が逆になる場合にも用いられる。
- ②ゲート自體の開閉によつて給配水出来る。
- ③ゲートの重量が少く建設費が安い。
- ④水位差があつても運転が容易である。
- ⑤クリアランスに制限がない。

等である。尼ヶ崎防潮堤の開門にはこれ等の条件を必要とするのでこのタイプを使用することにした。第一次として水門に採用目下製作中であり、次いで開門に使用する予定である。

茲にゲートの構造上発達の過程を述べ目下製作中の水門について詳述するものである。

(3-22) 幾春別川の河況調査について

正員 北海道開発局土木試験所 ○古谷 浩三

准員 同 村木 義男

本調査は幾春別川ダム工事を実施するに当り本川の水理学的資料を求める事を第一の目的とし、更に一般河川調査のモデル地区として昭和25、26年の2箇年に亘り降雨量、流出量、積雪量、融雪量の各項目について調査した結果を取りまとめたものである。調査人員及び測定器材の不備、不足並びに調査期間の短少のため一般河況の概要を知り得たに過ぎないが、各項目についての詳細な検討は後に譲る事として、下記各項目につき一応の概況と調査に使用した積算雨量計の使用方法及び試作せる長期式自記雨量計について述べたい。

1. 流域概況 a 一般地形 b 森林状況 c 河道状況
2. 降雨量の調査 a 概要 b 積算雨量計 c 降雨に対する森林の遮蔽作用 d 観測結果
3. 積雪水量調査 a 意義 b 調査方法 c 測定器具 d 結果
4. 流出に関する調査 a 調査方法 b 月別流出量と降水量の関係 c 流量継続曲線 d 渦水量と森林の影響
5. 融雪期の流出調査 a 積雪水量と流出量の関係 b 融雪期流出の特性 c 融雪水量と年間流量
6. 降雨に依る出水の状態
7. 長期式自記雨量計の試作について